



## 特 徴

色名語とそれが書かれたインクの色が異なる色名語（たとえば「みどり」）が提示され、そのインクの色（■）を呼称することが求められると、言葉（みどり）からの妨害を受け、うまく反応できないことが知られている。これはストループ効果が呼ばれており古くから知られている。

一方、言葉が表す色（■）と色パッチを照合することが求められても、色名語のインクの色（■）からの妨害を受ける。これは逆ストループ効果と呼ばれている。本テストはこれら二つの効果とも測定できる初めての検査である。

## 調 査 方 法

練習1→本試験1→練習2→本試験2→練習3→本試験3→練習4→本試験4の順に進め、検査用紙へ答えを記入する

## 検 査 対 象

インクの色を読み取り・語の読み取りが出来る年齢（小学2年生～高齢者）

※ただし、小学1年生や幼稚園児の場合、集団実施は検査への注意集中という点で問題がある。  
また、高齢者の場合、色名呼称の習慣がより若い世代と異なる。例：緑のインクの色を「あお」と答える

## 検 査 時 間

約5分

## - 選択されるもの -

## 1. 選択的注意の測定

従来からストループ効果には選択的注意が反映されるものであるとされており、本検査でも測定が可能である。特に、逆ストループ効果も同時に測定可能であることから、選択的注意を多面的に測定できる。

## 2. 言語処理と色処理の相互作用の測定

本検査では、ひらがなの言語処理と色処理が求められていることから、日本語の習得 通過が反映される。日本語が母国語でない外国人の日本語の習得レベルがストループ効果に反映される。

## - 用 途 -

## 研究目的

- ・注意力の個人差
- ・注意力の生涯発達の变化
- ・言語能力の発達

## 教育目的

- ・手軽にできる心理学実験の教材として
  - ・ボケ防止の材料として
- （すでに他の研究者によってストループ効果のこの用途が紹介されている。）



▲日本語版用紙：6枚綴り×25セット入

■中国語版用紙：6枚綴り×20set入

■英語版用紙：6枚綴り×20set入



▲採点盤：8枚入（ファイル付き）